

砥山農業クラブ

砥山農業小学校通信

第10回砥山農業小学校開校

5月20日(日)午前10時から記念すべき10回目の開講式が、りんごの花が満開の砥山ふれあい果樹園において24家族67人の大勢の皆さんをお迎えして行われました。

このうち5家族17人は連続しての参加です。この農業小学校の取り組みが多く市民の皆さんに支持されていることの証と言えるかもしれません。中でも小坂さんご家族4人は、6回連続の参加となりました。母親の貴美江さんは「子どものためと思って参加してきましたが、今では親も含めて家族全体の楽しみになって参加しないわけにはいかなくなっています。砥山に行くと豊かな自然と人に癒され、元気になります。また、子どもには農作物を作る農家の苦労を知って食べ物を大切にすることを学んでほしいと思っています。」と話してくれました。



砥山農業クラブによる農業小学校の取り組みは、過去数回に渡る表彰や昨年の京都市議会、新潟県村上市議会、韓国農業団体、JICAによるヨーロッパ等からの研修生などの視察が相次いたことが示すように、各方面から高い評価を受けています。その理由は、開設当初から道農業改良普及センター及び市農政部の支援のもと、すべてが地元農家と札幌農学校OB、八剣山発見隊のボランティアによって行われるという稀有な運営方法によるものと思われます。今年度も札幌農学校OBをはじめたくさんの方々がボランティアとして参加してくださっています。

5月20日(日)の授業

時間割	教科と内容	会場
1	入学式とりんごのお話	砥山ふれあい果樹園
2	果樹園見学	
3	野菜の定植	
4	じゃがいも作業体験	八剣山果樹園

【入学式】

瀬戸修一校長より歓迎のことばと共に、特に参加家族が昨年度の12組から倍増していることに対し謝意が述べられました。話の中では、風雨降雪、病害虫などに大きな影響を



【歓迎のあいさつをする瀬戸校長】

受ける農園経営の現状と、農産物が収穫されるまでには自然との闘いとともに気の遠くなるような作業があることが説明されました。続いて、スライドを使った「りんごの話」では、晩秋に収穫が終わりホットする暇もなく降雪の中で果樹剪定作業が開始され、続いて雪解けと前後するように始まる消毒作業、それを毎週のように繰り返しさらに摘果から収穫に至ることなど、消費者の目に見えないところで行われる膨大な仕事について理解が深まりました。このような話をとおして食べ物の大切さを学ぶことができました。

【果樹園見学】

砥山ふれあい果樹園の園地を巡りました。園内はりんごなどの花が咲き乱れまるで桃源郷のようです。しかし途中、果樹によく発生する腐らん病について実際に樹の患部を見ながら話を聞きました。この病気は人で言えばガンのような木の皮が腐る病気です。発見が遅れると死に至り木を倒さなくはなりません。治療するには有効な薬がなくて外科手術のように罹患部を切り取るしかありません。切り取って直ったと思って油断していると1年後にあちこちに転移していて重体に陥ってしまいます。大変恐ろしくてやっかいな病気です。また、2010年10月の大雪で被害を受けたぶどう棚では、後に植えられた幼木が元気に成長していることが分かり、数年先の収穫が楽しみです。

【野菜定植】

家族単位で、スイカ・カボチャ各1本、レタス4本、タマネギ(さっぽろ黄)5本を植付けました。畑にはあらかじめボランティアの手でマルチがかけられ準備が整えられています。苗を傷めないようにポッドから丁寧にして植付けが行われました。スイカにはあらかじめ準備された各家族思いのプレートが立てられましたが、これによって一層愛着がわくものと思われます。



【配置されたレタス】

【ジャガイモ作業体験】

午後からは八剣
山果樹園に異動し
て恒例のジャガイ
モの植付けです。
切り方の説明を受
けた後、準備され
た男爵・北あかり
各10kgの種イモ
を伸びている芽を



【植付けをする参加者】

傷めないように注意深く切り分けました。畑では機械による約30mの2本の畝たてを見学、マルチ張りの作業は全員が参加しました。1畝に30cmの等間隔の穴2列を開け、指1本分くらいの深さに種いもを植えこの日の授業が終了しました。収穫は8月に行われます。

ジャガイモ豆知識



【男爵イモ】

函館ドック専務取締役の川田龍吉男爵が、明治

41年(1908)に外国の種苗商から購入したことからこの名がついた。早生で適応性が広い。長所は、ジャガイモらしい広く好まれる食味、貯蔵中の品質の劣化が少ない。短所は、目が深く剥皮しづらい、剥皮褐変が多い、大いにも中心空洞が発生しやすい。

【北あかり】

昭和50年北海道農試(現北農研センター)において、ジャガイモシストセンチュウRo1に抵抗性の食用品種の育成を目標に、「男爵薯」を母、抵抗性の「ツニカ(Tunika)」を父として交配し

昭和62年(1987)北海道の優良品種に決まった。

保存が長ければ長くなるほど粉質度が落ちてくるので、旨みが低下。煮くずれは男爵薯よりしやすく、匂いはサツマイモに似ていて滑らかな舌触り。外食産業に向いていて、スープやサラダなどのレシピに適している。ビタミンCは男爵薯の1.5倍、カロチンも豊富に含まれている。近年の人気品種。

5月20日のスナップ



【果樹園見学】



【受粉にはハチの働きを借りる】



【腐らん病について説明】



【レタスの定植】



【ポッドから苗の出し方を説明】



【スイカの定植】



【種イモ切り】



【畝たてと同時進行するマルチ張り】



【ジャガイモの植付け】



第2回予定(6月17日(日))

- ◆りんごの摘果作業体験
- ◆野菜の苗植え
- ◆イチゴ収穫体験

発行:砥山農業クラブ(代表:瀬戸修一)

〒061-2275 札幌市南区砥山84番地

☎011-596-2694 FAX 011-596-2721

e-mail toyamafureai@gol.com

http://www.hakkenzan.com/nosyo/